

F: 医療経済・社会科学

社会科学 No.1

行動経済学で患者を理解する ― ナッジ・損失回避・現状維持バイアスを医療に使う

導入文

「患者に正しい情報を与えれば合理的な判断をするはずだ」という前提が崩れると、医師は戸惑う。行動経済学が明らかにした「人は合理的ではない」という事実を受け入れ、ナッジ・損失回避・現状維持バイアスを理解することで、患者が「なぜ生活習慣を変えられないのか」を医師として論理的に理解できるようになる。

講義概要

行動経済学の主要概念（損失回避・現状維持バイアス・双曲割引・ナッジ）を医療行動の文脈で体系化する。患者のアドヒアランス低下・検診受診率・生活習慣改善の失敗を行動経済学で説明し、ナッジを使った医療現場での患者支援の設計まで整理する。医学部面接で「患者中心医療」を新しい視点から語る力を育てる。

授業目標：患者の行動を「意志の問題」から行動経済学の枠組みで理解し、支援を設計できる視点へ変える。

対象者：高2～高3・浪人生。医学部・公衆衛生系志望で、行動経済学・ナッジを医療・公衆衛生に応用したい生徒。

授業時間：授業90分＋演習・質疑応答30分

到達目標：損失回避・現状維持バイアス・ナッジを定義して医療に応用できる／患者のアドヒアランス問題を行動経済学で説明できる／ナッジを使った介入を設計できる

授業構成（90分）＋演習・質疑応答（30分）

授業90分：1 導入：「なぜ患者は薬を飲み続けられないのか」を問いとして提示 2 損失回避：「得る喜び<失う痛み」という非対称性 3 現状維持バイアス：変化のコストを過大評価する傾向 4 双曲割引：将来の利益より今の楽を選ぶ傾向 5 ナッジ：強制なく行動を望ましい方向に誘導する設計 6 医療応用：服薬アドヒアランス・検診受診・生活習慣改善 7 演習：「糖尿病患者の生活習慣改善を支援するナッジを設計する」

追加30分：「患者の服薬中断を防ぐナッジ」を設計して説明する演習と、行動経済学と医師の役割について質疑応答を行う。

板書・スライド骨子：行動経済学の主要概念の定義と医療応用表／ナッジの設計原則／医療現場での具体的なナッジの例／アドヒアランス問題の整理

課題：「高血圧患者の服薬継続率を高めるためのナッジを3つ提案し、その行動経済学的根拠を説明する」

備考：高校・予備校の先生方／編入学試験および大学院受験への橋渡しの基礎確認をしたい方にも対応。